

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2013-147802

(P2013-147802A)

(43) 公開日 平成25年8月1日(2013.8.1)

(51) Int.Cl. F 1 テーマコード (参考)
E O 4 B 1/70 (2006.01) E O 4 B 1/70 A 2 E O O 1

審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願2012-7292 (P2012-7292)	(71) 出願人	303046244
(22) 出願日	平成24年1月17日 (2012.1.17)		旭化成ホームズ株式会社
			東京都新宿区西新宿一丁目24番1号
		(74) 代理人	100079108
			弁理士 稲葉 良幸
		(74) 代理人	100109346
			弁理士 大貫 敏史
		(74) 代理人	100117189
			弁理士 江口 昭彦
		(74) 代理人	100134120
			弁理士 内藤 和彦
		(72) 発明者	森戸 直美
			静岡県富士市鮫島2番地の1 旭化成ホームズ株式会社内

最終頁に続く

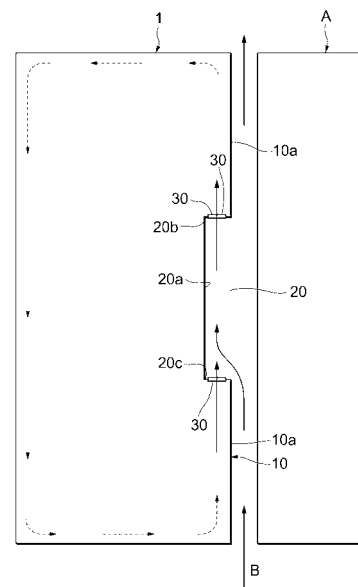
(54) 【発明の名称】 建物

(57) 【要約】

【課題】 良好な通風が得られる建物を提供する。

【解決手段】 建物1は、平面から見て長方形を有している。長辺の外壁10には、平面から見て内側に凹む凹部20が形成されている。凹部20の側面20b、20cには、開閉自在な縦長の窓30が設けられている。窓30は、縦方向の軸を基端として開閉する開閉形式を有する。例えば窓30は、凹部20の側面20b、20cに、基端40が先端41よりも外側に位置するように設けられ、窓30は、先端41が基端40と同じかそれ以上外側に位置するように開放可能である。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

平面から見て内側に凹み、その凹みの奥面よりも側面が短い凹部が形成された外壁と、前記凹部の側面に開閉自在に設けられた縦長の窓と、を有する、建物。

【請求項 2】

前記窓は、縦方向の軸を基端として開閉する開閉形式を有する、請求項 1 に記載の建物。

【請求項 3】

前記窓は、閉鎖時に基端が内側で先端が外側に位置するように前記凹部の側面に設けられ、先端が基端と同じかそれ以上外側に位置するまで開放可能である、請求項 2 に記載の建物。

10

【請求項 4】

前記窓は、内開きである、請求項 2 に記載の建物。

【請求項 5】

前記窓が、前記凹部の両側の側面に設けられている、請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載の建物。

【請求項 6】

前記窓が、卓越風の方角に対して略直交するように設けられている、請求項 1 ～ 5 のいずれかに記載の建物。

【請求項 7】

前記建物は、平面から見て長方形を有し、
前記凹部は、建物の長辺の外壁に形成されている、請求項 1 ～ 6 のいずれかに記載の建物。

20

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、良好な通風を得るための建物に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来より、建物には、通風が得られるように外壁に窓が設けられている。しかしながら、住宅密集地などの建物は、隣の建物との間が狭く、その隣の建物との間を通る風の方向と外壁の窓の面が平行になるため、窓から建物内に風を効率的に取り入れることが難しい。

30

【0003】

特許文献 1 には、壁に凹部を設け当該凹部に窓を設置した建物が開示されている。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0004】**

【特許文献 1】特開平 10 - 306504 号公報

【発明の概要】

40

【発明が解決しようとする課題】**【0005】**

しかしながら、かかる建物の場合、凹部に設けられた補強梁が邪魔になったり、窓が横長であったりして、十分に良好な通風が得られるものではない。

【0006】

本発明はかかる点に鑑みてなされたものであり、良好な通風が得られる建物を提供することのその目的とする。

【課題を解決するための手段】**【0007】**

上記目的を達成するための本発明は、平面から見て内側に凹み、その凹みの奥面よりも

50

側面が短い凹部が形成された外壁と、前記凹部の側面に開閉自在に設けられた縦長の窓と、を有する、建物である。

【0008】

本発明によれば、凹部の側面に縦長の窓が設けられているので、外壁を沿って流れる風が凹部の縦長の窓から建物内に効果的に流れ込む。よって、建物の良好な通風が得られる。

【0009】

前記窓は、縦方向の軸を基端として開閉する開閉形式を有していてもよい。かかる場合、凹部の側面において窓の開口面積を広く確保できるうえ、窓が開放時に整流板としての機能も果たすため、外壁に沿って流れる風を効率的に窓から取り込むことができる。

10

【0010】

前記窓は、閉鎖時に基端が内側で先端が外側に位置するように前記凹部の側面に設けられ、先端が基端と同じかそれ以上外側に位置するまで開放可能であってもよい。かかる場合、窓が開放時にウィンドキャッチャーとしての機能を果たし、建物内により多くの風を取り込むことができる。

【0011】

前記窓は、内開きであってもよい。かかる場合、外からみて開いているのがわかり難いので、防犯上好ましい。また、窓から屋内に取り込んだ風の風向を調整しやすくなる。

【0012】

前記窓が、前記凹部の両側の側面に設けられていてもよい。かかる場合、凹部の一方の側面の窓から入り建物内を通過して凹部の他方の側面の窓から流出する風のルートが形成されるため、建物の通風性を飛躍的に向上できる。

20

【0013】

前記窓が、卓越風の方角に対して略直交するように設けられていてもよい。かかる場合、建物内に卓越風が流れ込み易くなるため、建物の通風性がさらに向上する。

【0014】

前記建物は、平面から見て長方形状を有し、前記凹部は、建物の長辺の外壁に形成されていてもよい。

【発明の効果】

【0015】

本発明によれば、建物の良好な通風が得られる。

30

【図面の簡単な説明】

【0016】

【図1】建物の概略を模式的に示す平面図である。

【図2】窓の構成を示す斜視図である。

【図3】窓の構成を示す断面図である。

【図4】縦すべり出し形式の窓を示す説明図である。

【図5】内開きの窓の構成を示す説明図である。

【発明を実施するための形態】

【0017】

以下、図面を参照して、本発明の好ましい実施の形態について説明する。図1は、本実施の形態に係る建物1を模式的に示す平面図である。

40

【0018】

建物1は、例えば平面から見て長方形状を有する。建物1は、長辺の外壁10が隣の建物Aと接近しており、隣の建物Aとの間に狭い通路が形成されている。外壁10には、例えばALC（Autoclaved Light-weight Concrete；軽量気泡コンクリート）が用いられている。

【0019】

建物1の外壁10には、例えば平面から見て長方形状に内側に凹む凹部20が形成されている。凹部20の奥面20aは、外壁10の凹部20以外の他の外壁部10aと平行に

50

形成されている。外壁部 10a と奥面 20a を繋ぐ凹部 20 の両側の側面 20b、20c は、奥面 20a と他の外壁部 10a に対し垂直に形成されている。例えば凹部 20 の側面 20b、20c の水平方向の寸法は、奥面 20a の寸法より小さく、例えば 450～1500mm 程度が好ましい。奥面 20a の水平方向の寸法は、例えば 900mm～5000mm 程度が好ましい。

【0020】

側面 20b、20c には、それぞれ開閉自在な窓 30 が形成されている。窓 30 は、図 2 に示すように縦長の窓であり、例えば縦方向の軸を基端 40 として開閉する開閉形式を有している。例えば窓 30 には、片開き形式ものが用いられている。なお、本実施の形態においては、図 1 に示すように建物 1 と隣の建物 A との間を外壁 10 に沿って卓越風 B (10 頻繁に吹く風) が流れ、窓 30 は、卓越風 B の方向に対して略直交している。

【0021】

窓 30 は、例えば図 3 に示すように側面 20b、20c に、基端 40 が先端 41 よりも外側 (図 1 の隣の建物 A の方向) に位置するように取り付けられている。窓 30 は、先端 41 が基端 40 と同じかそれ以上 (90 度以上) 外側に位置するまで開放可能になっている。

【0022】

窓 30 は、図 2 に示すように例えば側面 20b、20c の水平方向と縦方向に可能な限り長く形成されている。

【0023】

図 1 に示すように、かかる構成の建物 1 において、隣の建物 A との間の通路に生じた風 B は、建物 1 の長辺の外壁 10 の一端側から入り、外壁 10 と平行に流れて、凹部 20 に入り込む。そして、風の向きに対し正面にある側面 20b の窓 30 から建物 1 内に入り込む。その後、風は、建物 1 内の内壁に沿って流れて、内部を一周した後、もう一方の側面 20c の窓 30 から建物 1 外に流出する。建物 1 外に流出した風は、外壁 10 に沿って外壁 10 の他端側から流れ出たり、再び側面 20b の窓 30 から建物 1 内に入る。

【0024】

本実施の形態によれば、凹部 20 の側面 20b に縦長の窓 30 が設けられているので、外壁 10 を沿って流れる風が窓 30 から建物 1 内に効果的に流れ込む。よって、建物 1 の良好な通風を得られる。

【0025】

また、窓 30 は、縦方向の軸を基端 40 として開閉する開閉形式を有するものであるため、縦方向に細長い側面 20b においても窓 30 の開口面積を広く確保でき、そのうえ窓 30 が開放時に整流板としての機能も果たす。よって、外壁 10 に沿って流れる風を効率的に窓 30 から取り込むことができる。

【0026】

窓 30 が、凹部 20 の側面 20b、20c に、基端 40 が先端 41 よりも外側に位置するように設けられ、窓 30 は、先端 41 が基端 40 と同じかそれ以上外側に位置するように開放可能である。これにより、窓 30 が、開放時にウィンドキャッチャーとしての機能を果たし、建物 1 内により多くの風を取り込むことができる。

【0027】

窓 30 が、凹部 20 の両側の側面 20b、20c に設けられているので、例えば側面 20b の窓 30 から入り建物 1 内を通過して側面 20c の窓 30 から流出する風のルートが形成される。このため、建物 1 の通風性を飛躍的に向上できる。

【0028】

窓 30 が、卓越風 B の方向に対して略直交するように設けられているので、建物 1 内に卓越風 B が流れ込み易くなり、建物 1 の通風性がさらに向上する。窓 30 は、閉まった状態を 0° とした場合、例えば 90° 以上 180° 以下、好ましくは 135° ± 15° まで開くものであってもよい。また、窓 30 は、任意の角度で固定できるものであってもよい。

10

20

30

40

50

【0029】

建物1は、平面から見て長方形状を有し、凹部20は、建物1の長辺の外壁10に形成されている。通常長辺の外壁に沿って流れる風は、建物内に取り込みにくいが、外壁10に凹部20を形成し、凹部20の側面20bに縦長の窓30を形成することにより、かかる外壁10であっても風を十分に取り込むことができる。

【0030】

以上、添付図面を参照しながら本発明の好適な実施の形態について説明したが、本発明はかかる例に限定されない。当業者であれば、特許請求の範囲に記載された思想の範疇内において、各種の変更例または修正例に想到し得ることは明らかであり、それらについても当然に本発明の技術的範囲に属するものと了解される。

10

【0031】

例えば以上の実施の形態において窓30は、凹部20の両側の側面20b、20cに設けられていたが、片側であってもよい。また、窓30は、例えば図4に示すように基端40側がスライドしつつ、先端41側が開く縦すべり出し形式のものであってもよい。その他、窓30は、上下にスライドして開閉する方式、水平軸を基端として開閉する形式など他の形式のものであってもよい。また、窓30は、図5に示すように内開きであってもよい。かかる場合、外からみて開いているのがわかり難いので、防犯上好ましい。また、窓30から屋内に取り込んだ風の風向を調整しやすくなる。

【0032】

また、建物1が複数の階層を有する場合、外壁10の凹部20は、総ての階層に設けられていてもよいし、一部の階層に設けられていてもよい。さらに凹部20は、建物1の長辺の外壁10に限られず、短辺の外壁10に設けられていてもよい。

20

【産業上の利用可能性】

【0033】

本発明は、建物の良好な通風を得る際に有用である。

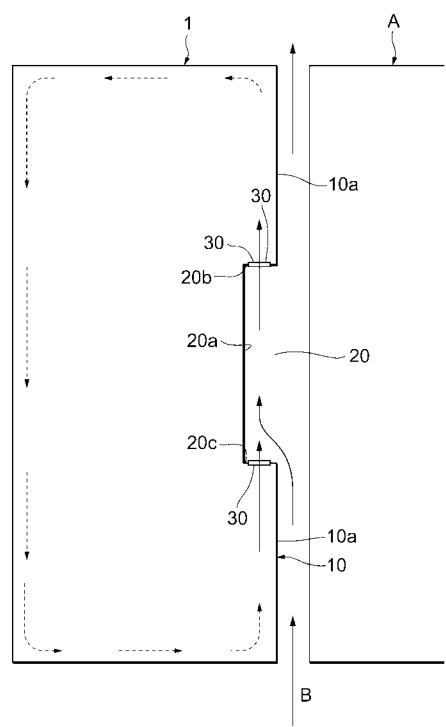
【符号の説明】

【0034】

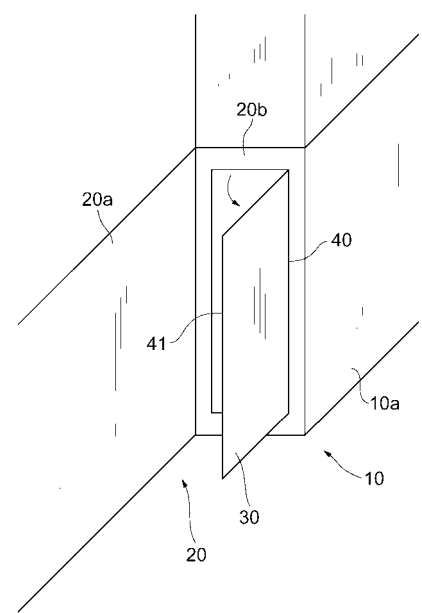
- 1 建物
- 10 外壁
- 20 凹部
- 20a 奥面
- 20b、20c 側面
- 30 窓
- 40 基端
- 41 先端
- B 卓越風

30

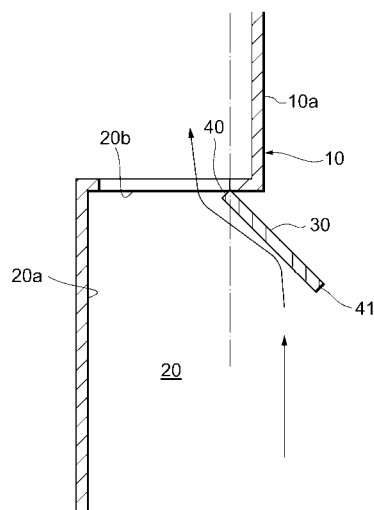
【図 1】



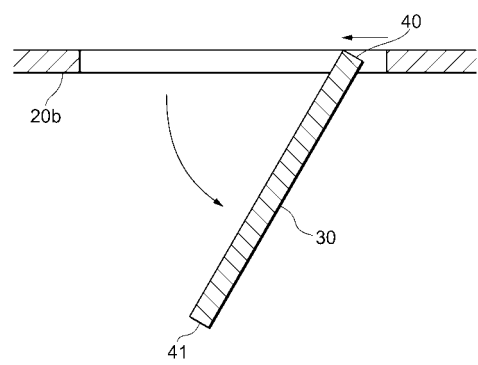
【図 2】



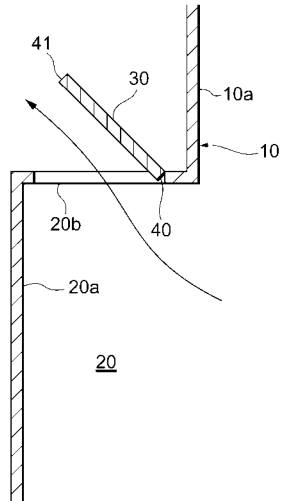
【図 3】



【図 4】



【図 5】



フロントページの続き

(72)発明者 古谷 誠章

東京都新宿区戸山3丁目15番1号 有限会社ナスカ一級建築士事務所内

Fターム(参考) 2E001 DB02 FA04 FA24 FA32 KA03 NA07 NC02